

盛岡てがみ館 第76回企画展



友人たちの 啄木像



Handwritten Japanese calligraphy in various styles, including vertical columns and a central larger character '信'.

令和8年

2月18日[水] - 6月8日[月]

主催 盛岡てがみ館(所管:盛岡市教育委員会)・公益財団法人盛岡市文化振興事業団

- 開館時間/午前9時～午後6時(ただし入館は午後5時30分まで)
- 休館日/毎月第2火曜日
- 入館料/令和8年4月1日から入館料が改定となります

3月31日まで

個人 一般 200円 高校生 100円
 団体(20人以上) 一般 160円 高校生 80円

※小・中学生及び盛岡市内に住所を有する65歳以上の方は無料

4月1日から

個人 一般 300円 高校生 200円 小・中学生 100円
 団体(20人以上) 一般 240円 高校生 160円 小・中学生 80円

※盛岡市内の小・中学生は無料



盛岡てがみ館

MORIOKA MUSEUM OF LETTERS

指定管理者:公益財団法人盛岡市文化振興事業団

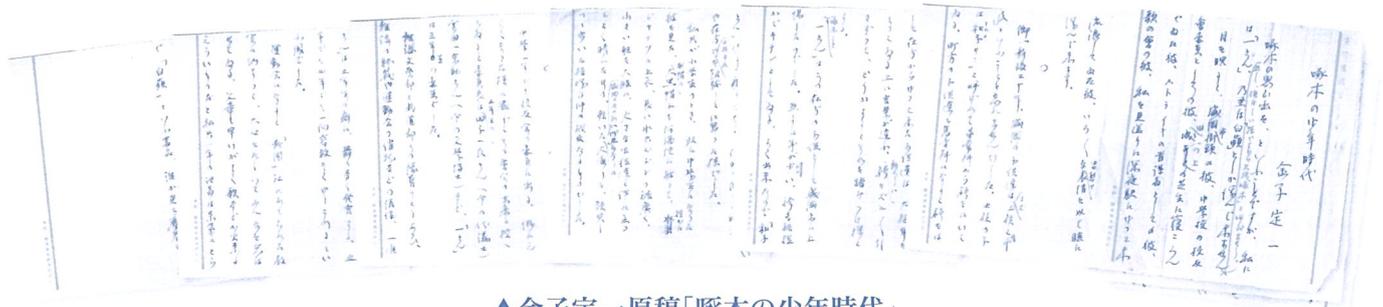
〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1丁目1-10 プラザおでって6階

TEL/FAX(019)604-3302



友人たちの啄木像

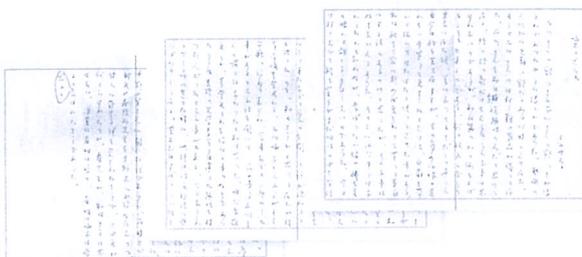
令和8年(2026)は、歌人・石川啄木(1886~1912)の生誕140年にあたります。啄木は、わずか26歳2か月という若さで亡くなりましたが、多くの友人や文壇の人々と交流を持ちました。盛岡中学校時代は「悪戯の味を知りて、友を侮り、師を恐れず」過ごしたという啄木を、学友たちはどのように見ていたのか。また、啄木と交流を持った文壇の人々は、啄木や作品をどのように評していたのか。友人たちが回想した啄木について、手紙や原稿をとおして紹介します。



▲金子定一原稿「啄木の少年時代」

『新編石川啄木全集月報』『啄木研究』第一號 掲載 改造社:昭和13年6月20日発行

盛岡中学校時代は啄木の2学年下で、陸軍少将となった金子定一が、少年時代の啄木を回想した原稿。中学生になった啄木の「颯爽たる」印象や、短歌グループ「白羊会」での様子などが詳細につづられている。



▲与謝野晶子原稿「啄木の思ひ出」

『新編石川啄木全集月報』『啄木研究』第一號 掲載 改造社:昭和13年6月20日発行

啄木が姉のように慕った歌人・与謝野晶子が、啄木について回想した原稿。晶子は、この原稿の冒頭で「石川さんの額つきは芥川さんの額つきが清らかであったやうに清らかであった」と啄木の印象を記している。



▲杉村廣太郎書簡 吉田孤羊あて (大正15年12月6日)

啄木の東京朝日新聞社時代の先輩である杉村廣太郎(楚人冠)は、啄木一家が困窮している様子を見かね、なげなしの財布から資金援助をした。しかし、啄木はそのお金でクロボトキンの書物を買ってしまう。これを知った杉村は、当時は憤り呆れたが、のちに「之が如何にも啄木式のところと改めて感心もし敬服もいたしました」と述べている。

関連イベント

●ギャラリートーク(学芸員)

令和8年3月13日(金) 10:30~11:15
お申し込みは令和8年2月27日(金)10:00から
先着順にて電話受け付け。定員10名。入館料が必要。

●ふみの日ギャラリートーク(館長)

令和8年5月23日(土) 10:30~11:15
お申し込みは令和8年5月9日(土)10:00から
先着順にて電話受け付け。定員10名。入館料が必要。

★当日ご来館の方にはポストカードをプレゼント(先着10名)。

(公財)盛岡市文化振興事業団からのお知らせ

■盛岡市先人記念館

収蔵資料展「富田小一郎の遺品展」
令和8年2月28日(土)~6月14日(日)

■原敬記念館

「第28回児童・生徒作品展示会」「原敬生誕170年記念ミニイベント」
令和8年2月7日(土)~2月23日(月・祝)

■盛岡市玉山歴史民俗資料館

リニューアルオープン記念 第1回企画展「明治時代のたまやまの暮らし」
令和8年3月末日まで

盛岡てがみ館

MORIOKA MUSEUM OF LETTERS

指定管理者: (公財) 盛岡市文化振興事業団

〒020-0871

岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-10
プラザおでつ6階

TEL・FAX (019)604-3302